

僕のお母さん

この詩に何をかこうかまよっている時、

お母さんはこう言った。

「なんのとりえもなくてごめんね」

いやー、びつくり

こうくるとは思わなかった

でも僕はそうは思わないけどね

だって腹痛のなおし方を知っているし、

バスケのことだっておしえてくれるし、

とにかく色々なことを知っている。

ここまで書いた時、お母さんはこの詩を見て

急に笑った

ものすごい笑った。そして「やめてよー」

いやー、びつくり

本当のこと書けばいいと思ったのに

でも僕はこんな風に笑っているお母さんが

大好きなんだ

だからこれからもお母さんには

たくさん笑ってほしいんだ